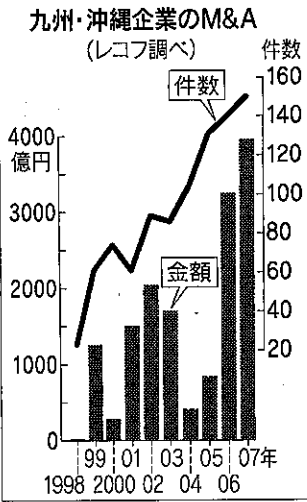


M&A 150 件 4 年連続最高

昨年の九州・沖縄 金融で大型案件

九州・沖縄に本拠を置く企業が二〇〇七年にかかわったM&A(合併・買収)件数は百五十件(公表ベース)と四年連続で過去最高を更新したことがM&A仲介のレコフ(東京・千代田)の集計で明らかになった。金融関連で大型案件が相次いだほか、投資会社やファンドによるM&Aが目立つ。後継者難などによる事業承継に活用する動きも増えている。

ファンドも攻勢



2007年に九州・沖縄の企業がからんだ主なM&A

出資者	対象企業	形態	金額 (億円)
ふくおかFG	親和銀行	買収	1760
プロミス	三洋信販	買収	1027
ソラーレホテルズ アンドリゾート	オクマビーチランド、 南西観光開発	買収	150
コカ・コーラウエ ストHD	南九州コカ・コー ラボトリング	資本参加	108
ふくおかFG	広島銀行	株式持ち 合い	100
ドーガン・アドバ イザーズ	インボイスRM	買収	100
サンクスジャパン 経営陣、リサ・パ ートナーズ	サンクスジャパン	MBO	82
アルフレッサホー ルディングス	琉薬	買収	67
ビックカメラ	ベスト電器	資本参加	57

資本参加や事業譲渡なども含むM&A件数は〇八年に比べ十件増。金額は八億円で同二割増となった。うち四割強を占めたのがふくおかフィナン

シャルグループ(FG)による親和銀行の買収だ。同社は昨年九月、親和銀行に対し一千億円の資本注入を実施。十月に九州親和ホールディングスから七百六十億円で同行の全株式を買い取った。同社は約百億円を投じて広島銀行との株式持ち合いも強化している。

消費者金融でも九月、プロミスが三洋信販をTOB(株式公開買い付け)で買収。三洋信販は金融庁から全店営業停止の行政処分を受けたことなどで業績が大幅に悪化した。TOBには議決権ベースで約九五%の応募

があり、残りの株式取得と合わせ計一千億円超の大型買収となった。金融関連では西日本シティ銀行子会社の長崎銀行が九月に実施した四十億円の第三者割当増資を投資会社のリサ・パートナーズが引き受けたほか、英投資会社のシルチエスター・インターナショナル・インベスターズが沖縄銀行の株式を十一月に八・三%まで買い進めたことが明らかになった。

飲食や家電量販でも再編の動きが相次いだ。コカ・コーラウエストホールディングス(HD)は四月、南九州コカ・コーラボトリング(熊本市)に二割出資。ピエトロは十月に創業者の村田邦彦社長が日清オイログループに保有株を譲渡し、同社傘下に入った。家電量販首位のヤマダ電機がベスト電器株を5%以上取得、ベストが対抗策としてビックカメラとの資本業務提携に踏み切った。九州の地銀やファンドなどは経営者の高齢化などに伴う事業承継問題を中心に、M&A市場が今後も拡大するとみて営業体制を強化しており、今後M&A件数は高水準で推移しそうだ。